

# 東京第四隊機関誌

第 参拾貳 号



「加爾ス力カト」の面接

去る六月十八日、渋谷東京  
寺に於て加爾ス力カト二級に  
対して、六月三ヶ月経つて  
から技能章五ヶ以上所有  
した者との面接があつた。

下。四隊から今日四隊  
長を初め飯田、志水  
副長、田中、中積、  
高橋、藤田、渡辺、  
辺上、級班長  
と私七人が

午後五時  
から面接  
が始まり  
多くの者が学  
校があり遅刻し  
た。今日隊長飯  
田副長は面接の御手  
伝をされた。面接場は  
八十二隊の集行われ  
た。経過を説明すると会場

に集合した順序に番号をき  
めて面接をうけた。まず入  
口で服装の検査を受けた。  
注意は半式、場所に出席十  
分前は必ず正座する。面接  
時には、面接官の話をよく  
聞き、注意をきく。面接官  
又ぎゆり、面接官以外に  
ものをつけたり、特にバ  
ツ子の下等服、次は部  
屋の中でイスに座って順番  
を待つ。面接官のオマケは  
小城地、三喜貞長、守屋進歩  
本貞長、若林本貞長の三名  
がオマケであつた。隊番号と  
名前を云つて経正書を提出  
し技能章をいくつ取つてい  
るか調へられた。私は教会  
との関係が一つ、これは  
からの隊への協力等、昔向  
であつたが色々、四隊に對  
しておぼけの言葉といふ  
いた。また色々、他の隊の  
一人一人が見られて、いふ、  
の、隊をより良くする、  
お、隊をより良くする、  
杉原



の為にはレイン、コートか  
 雨具羽、又はビニールの反  
 呂敷が心要です。此れら  
 は自分で着ないで大切な着  
 替えがぬれなれば横に包むの  
 にも使えます。せつかく取  
 って来た薪が湿つて火がつか  
 なくつたら大変です。か  
 らぬ。此れが予備のマッケ  
 は必ず防水の冬草の中に入  
 り込んで置きましょう。次  
 に蚊をばじり刺す虫が多い  
 事です。蚊取線香、DDT  
 日中、モスネットなどど  
 の他、刺さぬための  
 長ズボンを持つて行きますし  
 よう。此れは夜冷えた時の  
 用意をなすります。持物の  
 量は班長が聞いて下さい。い  
 谷川で負を突く事が出来  
 ます。覗き箱、水中眼鏡、  
 ヤス、網などがあつたら  
 と面白いです。取れる  
 取れるには別として。

四、勉強  
 野営  
 草、炊事等などをして準備  
 備として、キヤムの中は

ただ寝て食べてばかり居る  
 いで、天幕を立て方、かま  
 どの種火、便所の作り方、  
 水、料理などしつかり覚え  
 て下さい。特にハク、マ  
 スリーとグラブは前もつて  
 色々は事を知って、班長に  
 やらせつければいいので  
 自分で先立ってやるよう  
 にしましょう。後

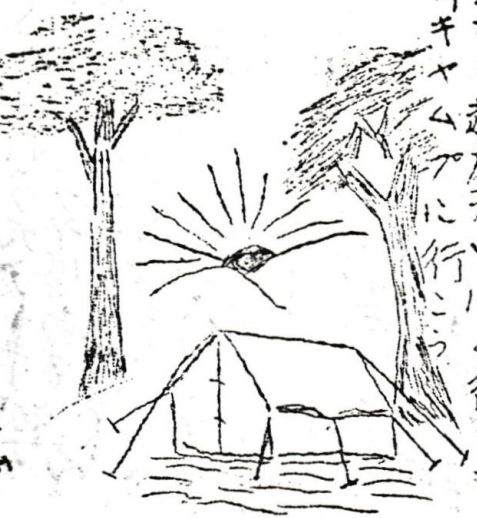


# キヤム

天幕のせい、魚けたごは  
 ん、かまど、煙のたごは  
 中に南をくするむらし  
 産、夏です。今年  
 夏はやつてきたり、又  
 カムト、眼がいきり  
 くま季節。  
 諸君キヤムガの準備を始  
 めましょう。  
 (個人) ユニフォーム、軍手、  
 雨具(レインコート、カッパ等)

ビニール風呂敷、ナイフ、  
 ロープ、磁石、時計、水筒  
 懐中電灯、ローソク、マシ  
 筆洗用具、洗面具、下着ハ  
 ンカチ一枚、二枚靴下二足  
 セーター、水泳具、鼻紙、  
 古新聞、麻ひも、毛布、リ  
 ック、飯盒、食器、ホルム  
 マイクス、サンダル、手  
 鏡、針、糸、本タン、薬  
 地、  
 瓶、各品、スベルの十字  
 飯のスコップ、麻ひも、  
 角灯、天幕、グラブ、  
 班旗、ローソク、磁石、地  
 皿、天幕補修布、布バケツ、  
 持ちた、地丁、シヤ、  
 布、さん、救急箱、けい、  
 料、蚊取線香、  
 各品、荷物、おん、今定  
 は自分、身体が健康である  
 かどうか、調べて見ましま  
 う。今年、陽性になった人は  
 いま、おん、おん、おん、  
 有人かいたら、残念です。か  
 今年、我慢して、おん、おん、  
 有りません。  
 スカウトが一度、おん、おん、

に行きたら、もうスカウト  
 をやることは出来ないう  
 しろ。夜、杉の木立の向  
 ぱたくと勢いよく燃えか  
 っアイアトを団んで、本  
 兄弟が、互いに仲り良い  
 ウトが、互いに語り、歌  
 踊って、朝の空気に響き  
 気持の良、朝の空気に響き  
 わたる起床ラツパの音、さ  
 めキヤムアに行こう



# カレライノスカウト

キヤムアが、お宿の  
 山の麓の、気持のよい林  
 中でした、スカウト連の重  
 たいツクツクを木の根本  
 に下す、林むひまをなく

すぐには各班毎に自介達りテ  
 ントを建て、適当な場所  
 せさかしました。或班は川  
 にすぐ下って行けるよう  
 な所を選ばました。又或班  
 は栗林のまん中に或班は少  
 し高い土地にと云うように  
 石や山雨を降ってよい  
 ような場所をえらんで立  
 ました。昼食に各自の行当  
 を食べてから自由時間  
 後再び作業が始まりました  
 た。その作業と云うりは本  
 部テントの設置、水  
 十字の印をうけた  
 真白な病院テントの設置  
 小に草刈り等でした。新し  
 いスカウト連には慣れな  
 い仕事でしたがそれだけに一  
 生懸命にやりました。や  
 二班と一諾について来た  
 一隊、二隊、三隊、四隊  
 林の一角、一角、一角、一角  
 ました。だが他の二隊、三  
 テントとは別に一つづつと  
 離れて立っているように感  
 ぜられました。しかしRC  
 八名が何を考え、自介達り



発行人 今田 富士雄  
 編集 スマイル編集部  
 発行所 ポーイスカウト  
 印刷所 東京第四隊

テントを一番端に離して  
 建てたのは二隊、スカウト  
 連の雑と知らないうことだ  
 たので、RC、RC、RC、RC  
 内では大將、ボア、コロ、  
 か何やら他の七人と相談し  
 て、ました。SBのモカ  
 さん、テ、オ、カ、リ、ン、ゴ、  
 SB、ハ、ケ、ニ、キ、リ、ス、  
 さ、エ、ビ、ス、ク、マ、キ、  
 ニ、ド、リ、ト、ニ、カ、ツ、  
 の可哀さんと皆カレ  
 高前を看書きに持った  
 RC、RCの人数が相談して  
 るのを見て二隊、スカウト  
 連は、あまた今夜、カレ  
 ライスに、ついて相談して  
 るのだ、位は、か思はな  
 ったこと、で、しよう。フ